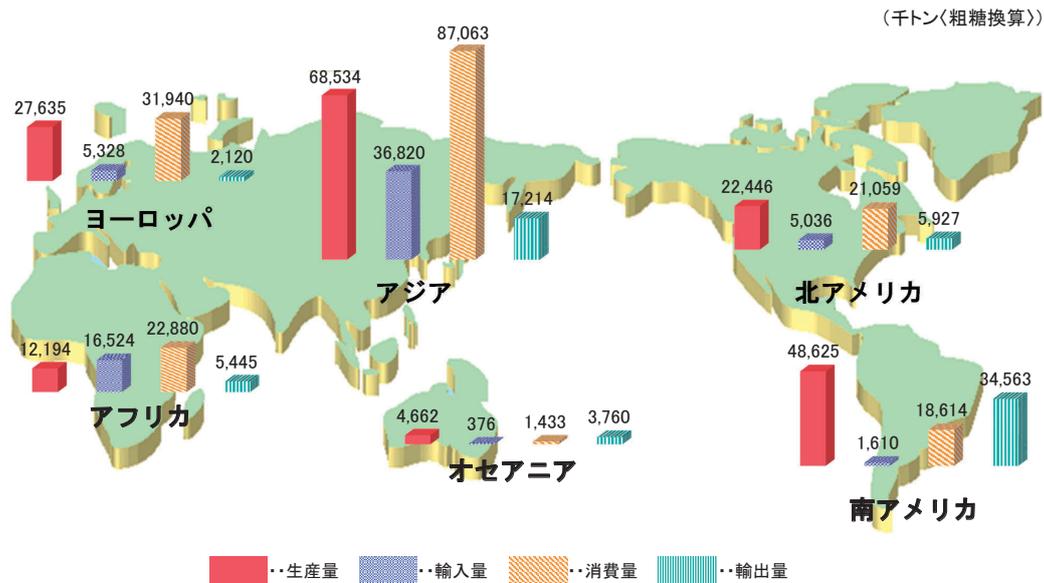


砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2020年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年12月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2020/21砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億8410万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比1.2%増）とわずかに増加すると見込まれる（表1）。アジアでは前年度を上回る一方、ヨーロッパでは主要産地であるフランスやロシアの減産の影響により前年度を下回る見通しである。

同年度の世界の砂糖消費量は、先行き不透明な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関しては、

感染拡大の抑制を目的とした都市封鎖が世界中で緩和されつつあり、以前の厳しいレベルに戻ることはないとの予測から、1億8299万トン（同1.3%増）とわずかに増加すると見込んでいる。現時点では、すべての地域で消費量が前年度比で増加すると見込まれるものの、今後の都市封鎖の実施状況によっては消費量を下方修正する可能性がある。

全体を見ると、2020/21年度の期末在庫率は前年度比1.8ポイント減の44.4%と見込まれ、砂糖の需給は前年度からわずかに引き締まるものの、高い水準が維持される見通しである。なお、地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,664	166,769	54,668	165,768	58,206	48,128	29.0
2015/16	73,842	175,955	67,776	178,675	69,077	69,822	39.1
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,657	65,883	180,835	67,706	81,309	45.0
2018/19	81,309	186,544	61,425	183,858	61,689	83,730	45.5
2019/20	83,730	181,827	69,004	180,682	70,355	83,524	46.2
2020/21 (2020年9月予測)	84,771	184,534	63,871	180,040	69,411	83,725	46.5
2020/21 (2020年12月予測)	83,524	184,096	65,695	182,990	69,028	81,297	44.4

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

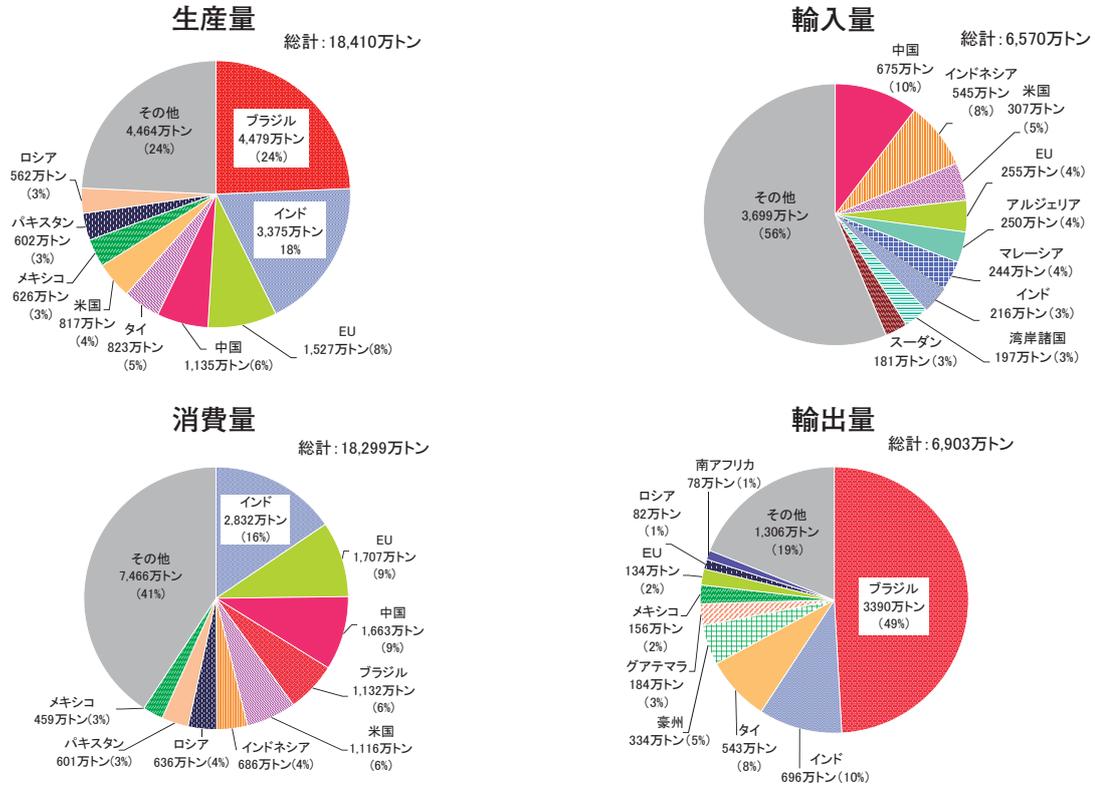
注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2020年12月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2020/21年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2020」

注1：主要国の年度は、各国の砂糖年度。

注2：主要国とその他を表示。

注3：「その他」は総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

国別に見ると、ブラジルは、天候不順により降雨が少なく乾燥した気候であったものの、サトウキビの収穫が順調に進んでいること、ATR（サトウキビ1トン当たりの回収糖分）が2006/07年度以降で最高であることや、製糖業者におけるエタノールから砂糖へ生産を切り替える動きを背景に、4479万トン（前年度比40.8%増）と大幅に増加し、世界の砂糖生産量の約4分の1を占めると見込まれる（図2）。

インドは、雨季の降雨に恵まれてサトウキビが順調に生育し、3375万トン（同14.7%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

EUにおいては、てん菜生産量第1位のフランスで干ばつと^{いおう}萎黄病の流行を背景とした減産が予測されており、EU全体の生産量は1527万トン（同10.1%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

【輸入量】

国別に見ると、インドネシアは、砂糖生産量の不足分を輸入で補っていることから、国内の減産に伴い545万トン（前年度比16.5%増）と大幅に増加すると見込まれる。

また、中国では、政府が戦略的に備蓄量を100万トン追加すると発表したことにより、砂糖の国内在庫量を積み増すために、ブラジルなどからの輸入糖の需要が上昇すると予測されることから、675万トン（同1.3%増）とわずかに増加すると見込まれる。

【消費量】

国別に見ると、インドは、個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、2832万トン（前年度比4.9%増）とやや増加すると見込まれる。長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国も、1663万トン（同2.0%増）とわずかに増加すると見込まれる。一方インドネシアは、COVID-19の感染拡大防止のために都市封鎖が実施されたことを受けて、686万トン（同6.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

EUは、1707万トン（同0.7%増）とわずかに増加すると見込まれる。

【輸出量】

国別に見ると、ブラジルは、エタノール需要の低下やリアル安が砂糖輸出への意欲を刺激し、3390万トン（前年度比66.8%増）と大幅に増加し、輸出量全体の5割弱を占めると見込まれる。タイは、砂糖生産量の3年連続の落ち込みと輸出に仕向けられる国内在庫の減少に伴い、543万トン（同33.5%減）と大幅に減少し、第2位から第3位に後退する見通しである。

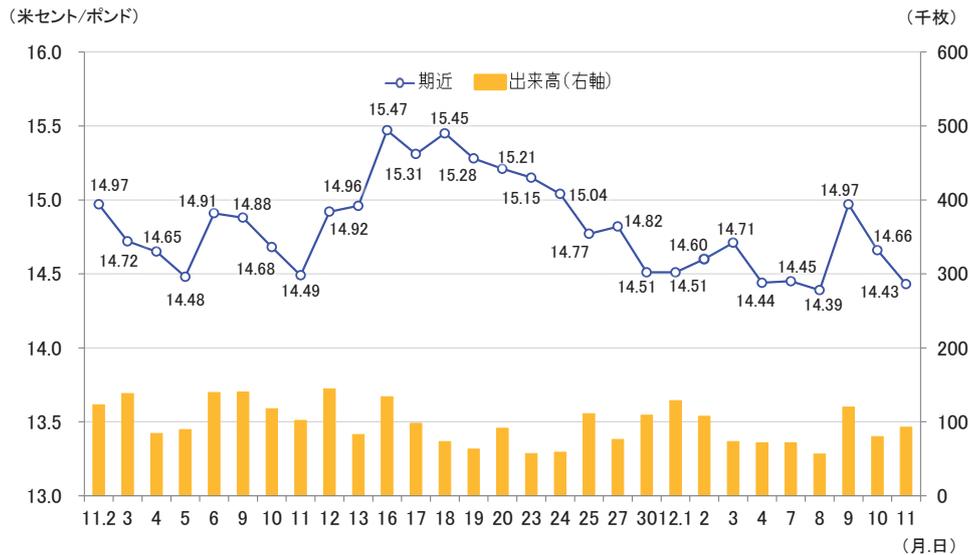
一方、インドは、2019/20年度は在庫量が多かったことから輸出が好調だったが、その反動から2020/21年度は一定の在庫量を確保すると予測されるため、696万トン（同13.2%減）とかなり大きく減少するものの、第2位に浮上する見通しである。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（11/2～12/11）

～ 11月中旬にかけて15セント台半ばまで推移し、その後は下落も14セント台を維持～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年11月の推移を見ると（3月限）、2日は、インドの製糖工場が政府の輸出支援政策の発表を待って、砂糖の輸出を手控えている^{（注1）}との報道があったことなどから、1ポンド当たり14.97セント^{（注2）}となった。4日は、ブラジルの主産地での降雨予報が報じられたことで、同14.65セントまで下落した。6日は、ブラジルレアルが対ドルで上昇したことを受け、同14.91セントまで上昇した^{（注3）}。10日は、インドの砂糖生産量の増加予測に加えて、再びブラジルの主産地での降雨予報があったことから、同14.68セントと下落した。11日は、10月後半のブラジル中南部の砂糖生産量が前年同期からかなり大きく増加し、製糖に仕向けるサトウキビの割合が上昇したとブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が公表したことなどをを受けて、同14.49セントと続落した。16日は、EU最大の砂糖生産国フランスの農業省が、

今年度のでん菜収穫量を先月予測から下方修正したことなどから、同15.47セントと急騰した。17日は同15.31セントまで一旦反落したが、18日は、中米諸国にハリケーンが直撃し、サトウキビが被害を受けたことや、前日に国際砂糖機関（ISO）が2020/21年度の砂糖不足量を引き上げたことを受けて、同15.45セントと反発した。19日以降は、インド産砂糖の供給量の増加予測やレアル安などを受けて下落が続き、25日は同14.77セントと15セント台を下回った。27日は、複数の主要通貨に対して米ドルが下落した影響で、同14.82セントと上昇したが、30日は、原油価格の下落に引きずられ、同14.51セントまで値を下げた^{（注4）}。

12月1日は、前日と変わらず同14.51セントを付けた。3日は、レアルが米ドルに対して4カ月ぶりの高値を付けたことで、同14.71セントまで上昇した。4日は、11月のブラジル産砂糖の輸出量が

前年から大幅に増加したとの報道を受け、同14.44セントと値を下げたものの、9日は、インドネシア政府が砂糖の輸入ライセンス制度について近日中に発表するとの見方が市場に広まり、同14.97セントと反発した。その後は下落し、11日は同14.43セントとなった。

(注1) インド政府の2020/21年度における砂糖の輸出政策の経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年11月号のインドの項「ISMA、2020/21年度における砂糖の輸出政策の早期発表を首相官邸に要請」(https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002327.html)も参照されたい。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが高くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注4) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替(補填)燃料であるバイオエタノールの需要も低下する。バイオエタノールの需要が低下すると、その原料作物(サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど)のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が増えることが想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2020年12月時点予測)

ブラジル

2020/21年度(4月~翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：873万ha(前年度比0.9%増)
生産量：6億5800万トン(同2.5%増)

【砂糖(甘しゃ糖)】

生産量：4479万トン(同40.8%増)
輸出量：3390万トン(同66.8%増)

2020/21年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

2020/21年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要にも不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、873万ヘクタール(前年度比0.9%増)とわずかに増加すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億5800万トン

(同2.5%増)とわずかに増加すると見込まれる。

一方、砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるバイオエタノール需要の不透明感を背景に、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られることから、4479万トン(同40.8%増)と大幅に増加すると見込まれる。この予測の下、ブラジルリアルが米ドルに対して安値圏で推移することで輸出意欲が向上し、輸出量は3390万トン(同66.8%増)と大幅に増加すると見込まれる。

10月末時点での中南部のサトウキビ収穫は、過去5年で最も早いペース

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が11月23日に公表したサトウキビ技術センター他3機関と共同で作成した報告書によると、2020/21年度10月末までにサンパウロ州を中心とするブラジル中南部地域でサトウキビが収穫された面積は、709万9000ヘクタール（前年同期比1.2%増）となった。これは過去5年間で最も早い収穫ペースであり、同年度に作付けした圃場の87.2%で収穫が完了したことになる。

10月のサトウキビの単収は1ヘクタール当たり

63.4トン（同5.3%減）とやや減少したものの、年度前半に当たる4月から10月における平均単収は同79.6トン（同2.4%増）と、前年同期をわずかに上回って推移している。

10月末時点までに压榨されたサトウキビは5億6592万トン（同3.7%増）、回収糖分（サトウキビ1トンから回収可能な砂糖の量）は144.9キログラム（同4.3%増）とともに前年同期と比べてやや増加した。同報告書によると、回収糖分の増加は乾燥気候によるもので、4月から10月における同地域の降雨状況などを示す指数は、平年値から約4割減少したとしている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

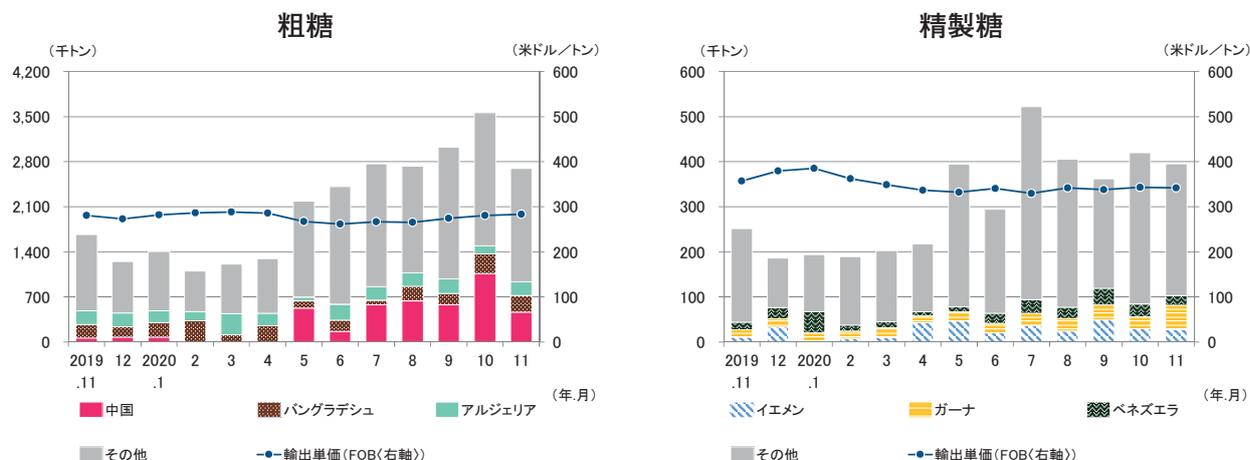
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (11月予測)	2020/21 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,617	8,649	8,653	8,726	8,726	0.9%	
サトウキビ生産量	641,066	620,832	642,219	656,000	658,000	2.5%	
砂糖	生産量	41,517	31,225	31,804	43,944	44,794	40.8%
	輸入量	2	3	2	3	3	28.4%
	消費量	10,852	10,635	10,812	10,521	11,321	4.7%
	輸出量	31,026	21,017	20,321	33,854	33,903	66.8%
	期末在庫量	663	239	912	685	485	▲46.8%
	期末在庫率	1.6	0.8	2.9	1.5	1.1	1.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：473万ha（前年度比6.5%増）
生産量：3億9338万トン（同13.6%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3375万トン（同14.7%増）
輸出量：696万トン（同13.2%減）

2020/21年度、砂糖生産量はかなり大きく増加するものの、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた昨年度からの反動で、473万ヘクタール（前年度比6.5%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表3）。サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン期（6～9月）における降雨が順調であることから、ダムの水位回復により、サトウキビ生産量は3億9338万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれ、砂糖生産量も3375万トン（同14.7%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。今年度はコロナ禍における厳しい財政状況を理由に砂糖の輸出政策^(注)の発表が遅れており、輸出政策が発表されたとしても、輸出契約締結までの期限が前年度と比べて短くなることから、輸出量は696万トン（同13.2%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

（注）インド政府の2020/21年度における砂糖の輸出政策の経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年11月号のインドの項「ISMA、2020/21年度における砂糖の輸出政策の早期発表を首相官邸に要請」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002327.html）も参照されたい。

ウッタルプラデーシュ州、すべての村でのマイクロかんがいの導入を推進

現地報道によると、インド最大のサトウキビ産地であるウッタルプラデーシュ（UP）州政府は、2022年末までに同州のすべての村で少なくとも2ヘクタールのマイクロかんがい^(注)（主に点滴かんがい）圃場を設置する計画を明らかにした。すでに同州内の約10万7000村のうち約3万村ではマイクロかんがいの導入が進められており、同州政府園芸部は、この取り組みを今後2年間かけて同州内のすべての村へ展開することを目指している。これにより、農業用水の消費量が30%程度削減でき、土壌の物理性や作物の生産性の向上が見込まれている。なお同部は、同国の点滴かんがいを含むマイクロかんがいの利用率が約8%であるのに対し、サトウキビ生産量国内第2位のマハラシュトラ州では、サトウキビ圃場の30%に点滴かんがいが利用され、利用率が10～12%のUP州よりも回収糖分が多いとしている。UP州でスプリンクラーかんがいに代えてこのようなかんがい設備を導入することは、サトウキビ生産者にとって大きな意義があると述べている。

（注）マイクロかんがいは、給水管路に接続された散水管内の水圧に対応して比較的少ない流量で作物の根群域に頻繁にかんがいすることである。マイクロかんがいには、点滴かんがい、多孔管かんがいなどがある。

表3 インドの砂糖需給の推移

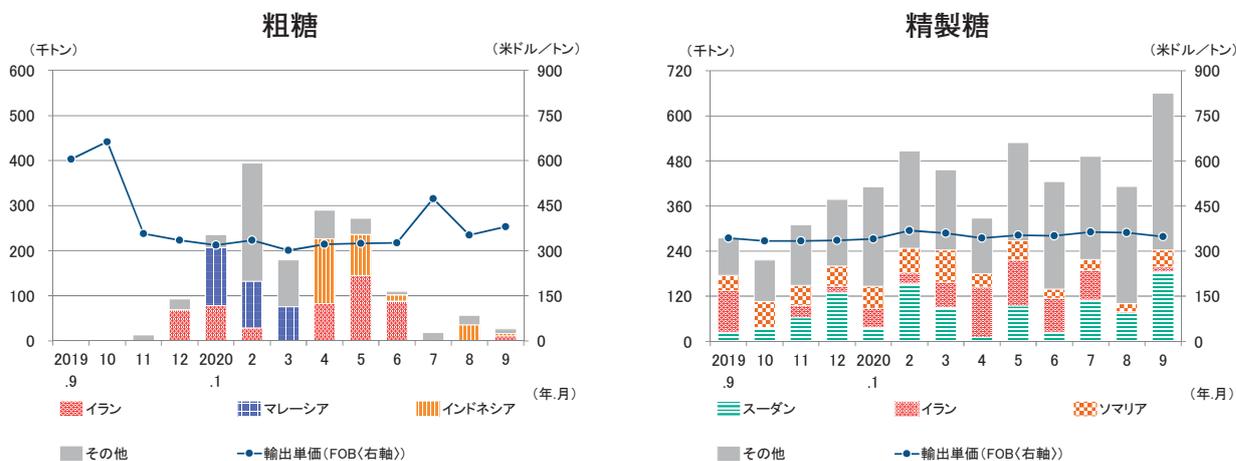
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (11月予測)	2020/21 (12月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,441	4,731	4,731	6.5%
サトウキビ生産量	404,399	404,528	346,431	399,119	393,379	13.6%
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	33,965	14.7%
	輸入量	2,308	664	1,687	1,728	28.1%
	消費量	27,421	27,540	27,007	28,322	4.9%
	輸出量	2,361	5,504	8,011	6,934	▲13.2%
	期末在庫量	11,522	14,940	11,046	11,667	5.7%
	期末在庫率	38.7	45.2	31.5	33.1	33.1

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha(前年度比1.6%減)

生産量：7360万トン(同1.2%減)

【てん菜】

収穫面積：23万ha(同8.8%増)

生産量：1238万トン(同13.6%増)

【砂糖(甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量：1135万トン(同0.9%増)

輸入量：675万トン(同1.3%増)

2020/21年度、輸入量はわずかに増加する見込み

2020/21年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、雲南省では面積の増加がみられるものの、広西チワン族自治区と広東省での面積減少を受

けて、116万ヘクタール(前年度比1.6%減)とわずかに減少すると見込まれる(表4)。サトウキビ生産量は、7360万トン(同1.2%減)とわずかに減少すると見込まれる。

また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル

自治区において、てん菜の買い取り価格が引き上げられたことから、生産者は作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同8.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。てん菜生産量は、単収の増加に伴い、1238万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、1135万トン（同0.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、11月におけるブラジル産糖の輸入量が10月の輸入量と比べて半減したものの、国内の砂糖需要の回復などを受けて、675万トン（同1.3%増）とわずかに増加すると見込まれる。

農業農村部、砂糖の短期的需給見通しを発表

中国農業農村部は11月10日、主要農産物の短期的需給見通しを発表した。これによると、10月末

現在、てん菜糖の主産地である新疆ウイグル自治区や内モンゴル自治区をはじめとしたてん菜糖生産地域におけるすべての製糖工場で2020/21年度分の压榨が開始され、中国国内では前年同期比3万3800トン増の43万2600トンの砂糖が生産され、出荷量も同1万3400トン増の14万9700トンであった。一方、サトウキビの主産地である広西チワン族自治区では、ここ最近の降雨や気温低下によるサトウキビのシヨ糖含有量への悪影響が懸念され、農業農村部は今後、同自治区をはじめとした国内南部のサトウキビ産地の天候やシヨ糖含有量などの压榨状況を注視していくとしている。

なお、国内の砂糖消費量は予想を上回る回復を見せており、2020/21年度の国内消費量は前月予測から10万トン上方修正されて1530万トン（前年度比2.0%増）とわずかに増加すると見込まれている。

表4 中国の砂糖需給の推移

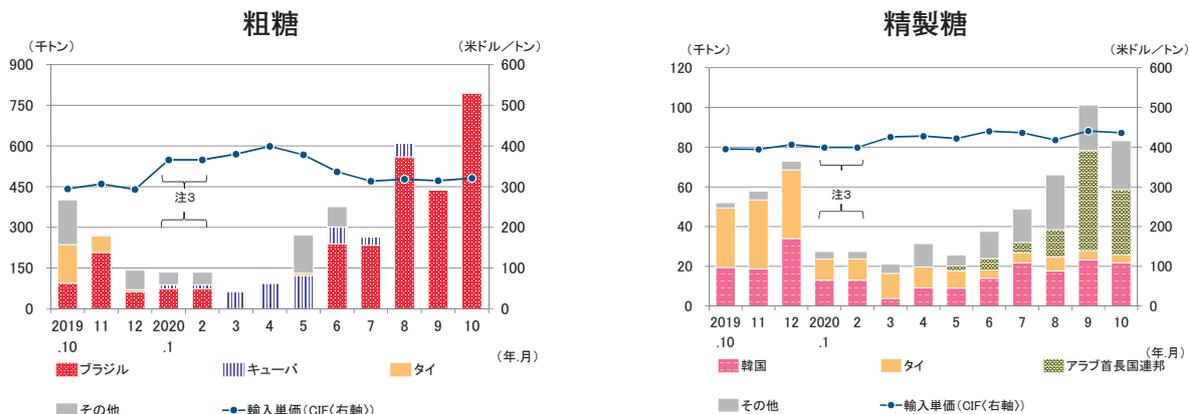
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (11月予測)	2020/21 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,188	1,157	▲ 1.6%	
サトウキビ生産量	76,780	78,590	74,490	75,200	73,600	▲ 1.2%	
てん菜収穫面積	186	243	213	229	231	8.8%	
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	11,451	12,380	13.6%	
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,258	11,420	11,354	0.9%
	輸入量	6,089	5,035	6,667	6,667	6,750	1.3%
	消費量	16,414	16,522	16,305	16,466	16,631	2.0%
	輸出量	182	210	192	205	201	4.9%
	期末在庫量	11,329	11,271	12,699	14,257	13,972	10.0%
	期末在庫率	68.3	67.4	77.0	85.5	83.0	6.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2020年1、2月の数値は、中国海関総署（日本の税関に相当する組織）が公表した1～2月の合計値を等分した。

E U

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：148万ha（前年度比2.8%減）

生産量：9432万トン（同13.3%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1527万トン（同10.1%減）

輸出量：134万トン（同22.6%減）

2020/21年度の輸出量は、砂糖減産を受け大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は148万ヘクタール（前年度比2.8%減）とわずかに減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、EU最大のてん菜生産国であるフランスで特に流行している萎黄病の被害を受けて、前月予測から下方修正され、9432万トン（同13.3%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

てん菜生産量の落ち込みを受け、砂糖生産量は1527万トン（同10.1%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は砂糖の減産に伴い、134万トン（同22.6%減）と大幅に減少すると見込まれる。

清涼飲料水への糖類添加量、5年間で約15%減

欧州委員会は2016年2月に、2015年末を基準として2020年までに、食品に添加される糖類を最低で10%削減する目標を採択していたが、欧州清涼飲料水協会（UNESDA）^(注)は11月17日、欧州の清涼飲料水製造企業が2015年から2019年にかけて、清涼飲料水に添加する糖類の量を、平均14.6%削減したと発表した。

UNESDAによると、欧州の清涼飲料水製造企業は、糖類添加量の削減のために、以下の取り組みを実施してきた。

- ①おいしさを維持しつつも、糖類添加量を削減できるレシピへの変更
- ②さまざまな甘さを選択できる商品の開発
- ③摂取量を調整しやすいようにするため、より小さいサイズの商品を展開

④エネルギーや糖類の含有量が少量または含まない商品を選択するよう消費者へ啓発

UNESDAの代表は「当業界が、EUの目標期限に先駆けて目標を上回る削減を達成したという結果は、清涼飲料水製造企業の糖類添加量削減に向けた自発的な努力が、明白な成果をもたらしたことを証明している」と述べ、今後も健康を志向する消費者

の選択が容易なものとなるよう、これらの取り組みを継続していくとした。

(注) 欧州連合 (EU) 加盟国の他、英国、ノルウェー、スイスといったEU域外国を含めた欧州24カ国の清涼飲料水製造企業および24の国単位の協会などが加入する非営利団体 (アルコールやミネラルウォーターなどの部門は含まない)。欧州委員会に対する意見具申などを行う。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

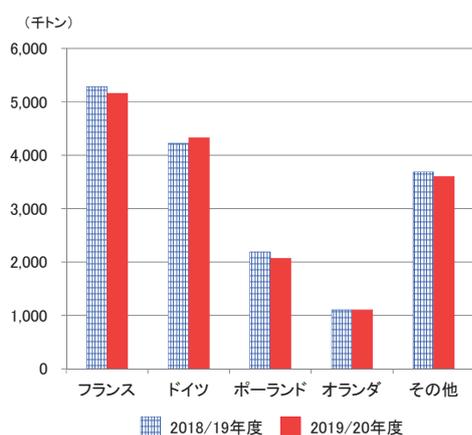
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (11月予測)	2020/21 (12月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,480	1,475	▲ 2.8%
てん菜生産量	130,930	104,402	108,815	98,920	94,322	▲ 13.3%
砂糖	生産量	20,353	17,116	16,985	16,186	▲ 10.1%
	輸入量	1,566	2,349	2,349	2,212	8.6%
	消費量	17,210	17,233	16,955	17,038	0.7%
	輸出量	4,270	2,391	1,732	1,395	▲ 22.6%
	期末在庫量	1,199	1,041	1,688	1,214	▲ 35.0%
	期末在庫率	5.6	5.3	9.0	6.6	6.0

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2020」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

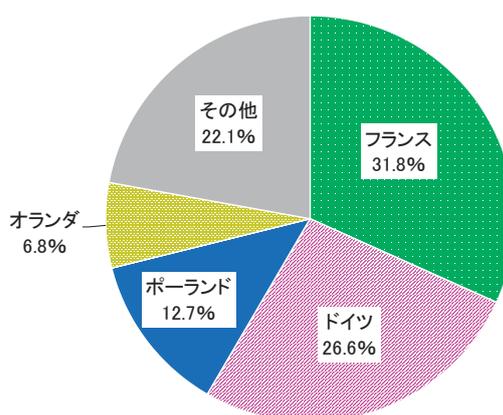
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2020年9月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料: 欧州委員会
注1: 精製糖換算。
注2: 2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料: 欧州委員会
注: 2019/20年度の予測値に基づく割合。

5. 日本の主要輸入先国の動向（2020年12月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この2カ国の動向については毎月報告し、フィリピンおよび南アフリカの動向についてはそれぞれ半年に1回の頻度で報告する（フィリピンは4月号および9月号、南アフリカは10月号および3月号を予定）。

本稿中の為替レートは2020年11月末日TTS相場の値であり、1豪ドル=79円（78.91円）である。

豪州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）

生産量：3110万トン（同3.5%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：436万トン（同1.9%増）

輸出量：334万トン（同3.0%減）

2020/21年度、砂糖生産量はわずかに増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3110万トン（同3.5%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、サトウキビ生産量の増加も受けて、436万トン（同1.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸出が消費量の落ち込みをある程度補うと予測されるものの、輸出量は334万トン（同3.0%減）とやや減少すると見込まれる。

インド政府の補助金をめぐるWTO紛争、2021年前半にも最終決定か

2020年11月30日付の現地報道は、2019年3月頃、インド政府による砂糖産業への補助金が砂糖の国際価格低迷を招いているとして、豪州、ブラジル、グアテマラの各国政府が行った世界貿易機関（WTO）への提訴について、数週間以内に聴聞会が行われる予定であると報じた。当初、この聴聞会は5月に開催されることが予定されていたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を受け延期されていた。12月中に実施されるとみられる聴聞会は、通常であればWTOの本部があるスイスのジュネーブで実施されるが、今回はオンライン形式で開かれる予定である。豪州政府およびクイーンズランド州のサトウキビ生産者協会の会長は、早ければ2021年の前半で最終的な結果が出る可能性があるとみており、砂糖の国際価格の上昇に期待していると述べた。同会長によると、砂糖の国際価格

はインド政府の補助金の影響を受けて下落し、国際価格の影響を大きく受ける豪州の砂糖産業の損失額は年間3億～4億豪ドル（237億～316億円）に上っているという。

豪州に事務局を置く世界砂糖連盟（Global Sugar Alliance）^{（注）}はインド政府に対し、砂糖産業への補助金を廃止し、国内で余剰となった砂糖を

国外に輸出するのではなく、温室効果ガス排出量と石油の輸入量の削減が期待できるバイオエタノール製造などの促進を求めている。

（注）豪州、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、グアテマラ、南アフリカ、タイの製糖業者が加盟する連合組織。砂糖の貿易自由化の推進、世界の砂糖取引環境の改善などを行っている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (11月予測)	2020/21 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	376	379	364	361	361	▲ 1.0%	
サトウキビ生産量	33,344	32,493	30,044	30,921	31,098	3.5%	
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,283	4,340	4,364	1.9%
	輸入量	27	18	16	58	20	22.2%
	消費量	1,019	1,050	1,052	1,036	1,036	▲ 1.6%
	輸出量	3,590	3,562	3,449	3,362	3,344	▲ 3.0%
	期末在庫量	849	972	770	517	774	0.5%
	期末在庫率	18.4	21.1	17.1	11.7	17.7	0.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：139万ha（前年度比14.4%減）

生産量：7000万トン（同6.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：823万トン（同6.5%減）

輸出量：543万トン（同33.5%減）

2020/21年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、今期作の作付時点で、キャッサバなどのサトウキビとの代替性のある作物の収益性がサトウキビよりも高かったことから、代替作物がより多く作付けされたことにより139万ヘクタール（前年度比14.4%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。干ばつの影響を受けて、サトウキビ生産量は7000万トン（同6.5%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は

823万トン（同6.5%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は543万トン（同33.5%減）と大幅に減少すると見込まれる。

OCSB、2020/21年度のサトウキビ圧搾量を前年度比10.5%減と見込む

現地報道によると、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）^{（注1）}は11月25日、2020/21年度のサトウキビの圧搾開始日を12月15日とすることを発表した。当初、製糖業者は12月7日からの開始を提案していたが、農家は、収穫作業時の労働力不

足を理由に、作業を遅らせるよう要望していた。

産地では労働力不足が懸念されるなか、タイ政府は2018/19年度以降、大気汚染対策として、サトウキビの焼き畑収穫の削減計画に取り組んでおり、2020/21年度には焼き畑収穫の割合を収穫面積の20%、翌年度には0%から最大で5%以下に抑制することを目標に掲げている。一方、タイ製糖協会(TSMC)は、焼き畑削減のための過度な目標設定は、サトウキビの作付面積の減少につながると指摘し、同割合を40%程度とするよう求めており、双方の溝は大きい状況となっている。

OCSBによると、2020/21年度は57工場が稼働し(注2)、压榨されるサトウキビの量は、植え付け時の干ばつ拡大を受けて6704万トン(前年度比10.5%減)と、かなり大きな減少が見込まれている。

(注1) サトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である政府3省(工業省(製糖関係)、農業協同組合省(原料作物関係)、商務省(砂糖の売買関係))とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された、サトウキビ・砂糖委員会(TCSB)の事務局。

(注2) 2019/20年度は、57工場が稼働した。

表7 タイの砂糖需給の推移

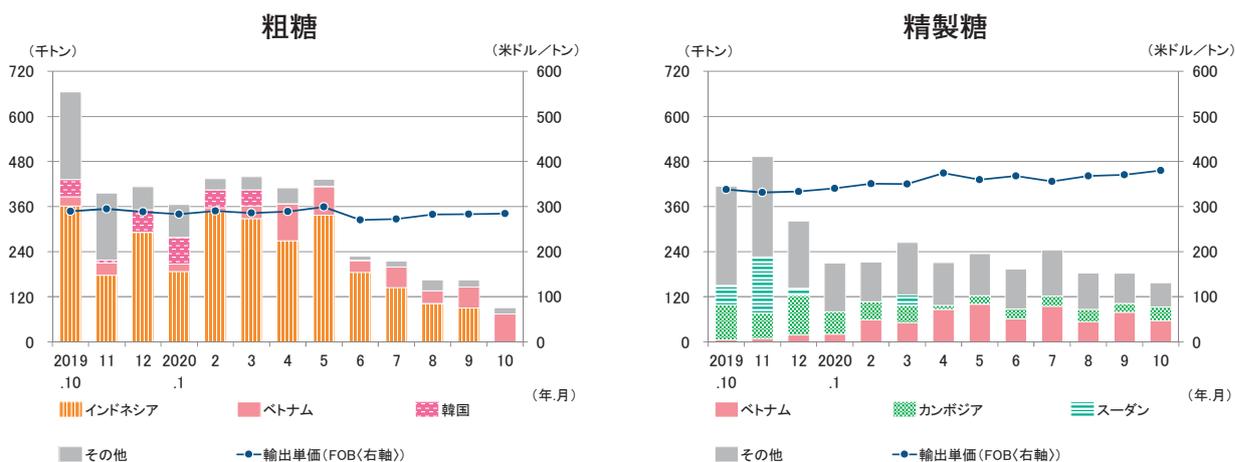
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (11月予測)	2020/21 (12月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,626	1,392	1,392	▲ 14.4%
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	67,500	70,000	▲ 6.5%
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	7,940	▲ 6.5%
	輸入量	5	3	59	14	▲ 61.0%
	消費量	3,434	3,737	3,557	3,646	2.5%
	輸出量	9,820	10,113	8,162	5,083	▲ 33.5%
	期末在庫量	6,289	7,899	5,046	4,245	▲ 16.2%
	期末在庫率	47.4	57.0	43.1	48.6	46.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。